

令和7年度 学校自己評価システムシート（秋草学園高等学校）

目指す学校像	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を涵養し、「愛され信頼される女性」を育成する学校。 生徒一人ひとりを大切にし、生徒の「やってみたい」を「やってみる」にする学校
--------	---

重点目標	1. 挨拶の励行、道德心の育成を通じ、建学の理念の具現化を図る。 2. 学習の習慣化・授業の充実を通じ主体的な学びを身に付けさせ、進路希望の実現を図る。 3. 生徒募集・広報活動に全員体制で取り組み、入学者を増やす。 4. 教職員の意識改革・学校改革を推進し、よりよい秋草学園の創造を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校関係者	4人
事務局（教職員）	4人

学校自己評価						
年度目標				令和7年度評価（3月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	1 挨拶は、本校の教育方針の一つである「礼節の心」の育成に関わるものであるが、日々の高校生活において更に定着させる必要がある。 2 時間を守る、清掃活動を通じて校内美化を徹底する、授業に集中する等により、「勤勉の精神」を更に高める。 3 日頃の各クラスでの活動、部活動、学校行事、生徒会行事を通じて、「協調」して行動することの大切さを身につけさせる。	1 様々な場面で心のこもった挨拶ができているか。 2 ①チャイムと共に授業が開始できているか。 ②校内の清掃がきちんと行われているか。 ③授業規律は守られているか。 3 各クラスで生徒が協力して日頃のホームルームの活動や行事に取り組んでいるか。	校長講話、担任による日頃の教育活動で礼節・勤勉・協調の精神を常に念頭に置いた指導を行う。 1 ①毎朝、教職員や生徒が校門に立ち、心を込めた挨拶をする。授業や集会などの始めと終わりにしっかりとした挨拶をさせる。 2 ①校内巡回担当が確認する。 ②各ホームルームで清掃指導を徹底すると共に清掃箇所の監督教員がしっかりと指導する。 ③授業担当、担任が相互に意思疎通をはかり、授業規律を確立する。 3 ①部活動、各行事の指導で常に組織を意識した指導を行う。②伝統的な行事を通じて育成する。	1 ①教職員自らが率先垂範で挨拶ができているか。 ②教員が毎朝校門に立ち、生徒への挨拶指導が実施できたか。生徒の学校生活での挨拶が定着したか。 2 ①HR・授業でのチャイム着席が徹底できているか。 ②各箇所での清掃に熱心に取り組んでいるか。廊下等にゴミが落ちていないか。 ③授業担当と担任の意思疎通が図れているか。 3 ①綿密な活動計画の下、運営されているか。 ②顧問と担任間の「報連相」が行われているか。 ③伝統的な行事を通じて建学の理念を学ばせる事ができたか。	1 ①概ね良好に実施が出来た。 ②校門での挨拶指導は学年の当番制により、定着出来てきているが、生徒によっては不十分な者もいる。 2 ①授業のチャイム着席は授業担当者による。 ②清掃には熱心に取り組んでいるが、ゴミ捨ての徹底はされていない。③授業担当者とは意思疎通が取れている。 3 ①概ね良好。 ②報連相に関しては概ね良好だが、組織を意識した指導までは出来ない。③伝統的行事を通じ建学の理念の育成ができた。	A 1 ①引き続き教員の率先垂範の挨拶が必要である。②朝の挨拶から日常の挨拶まで全員が出来るよう指導していく。 2 ①授業のチャイム着席は教科の担当者が統一した指導を行う。②教室のゴミ捨てはこまめにするよう指導していく。 ③欠時数や提出物等、後で問題にならないよう、授業担当者と担任はこまめな連絡が必要。 3 ①概ね良好であり、引き続き努める。 ②組織を意識した指導を実施していく。 ③伝統的な行事を行う際には、常に建学の理念を意識して行っていく。
2	1 基礎学力の定着が十分でない生徒が少なくない現状があり改善の必要がある。 2 新学習指導要領に基づく新教育課程の完全実施の2年目に伴い、授業研究、教材研究の充実が一層求められている。観点別評価の円滑な実施が求められている。 3 生徒の主体的な学びを促すためのA L型授業の推進と教材の工夫、ICTの活用が必要である。	1 ベネッセの基礎力診断テスト、スタディサポート等の結果において基礎力が定着し学力が向上しているか。 2 生徒の実態に合った学習指導計画が立てられたか。各教科で授業研究・教材研究が進められたか。観点別評価は定着したか。 3 A L型授業の実践がなされているか。ICT活用の準備がなされているか。	1 基礎力診断テストやスタディサポートの結果に基づいた教員の研修会を実施し、その後の指導に活用する。 2 ①生徒による授業評価を活用する。 ②研修会の実施により、教員の実践力を高める。 3 ①授業研究旬間、研修会等を通して授業力を向上させる。 ②ICTの活用をはかる。	1 ①過去からのデータの推移比較の結果はどうか。 ②研修会は実施できたか。 2 ①生徒の授業評価の結果はどうだったか。 ②研修会を実施し、研修会の成果をその後の教育活動の充実に活用できたか。観点別評価は円滑に進められたか。 3 ①生徒による授業評価や教員間の授業研究・教科会が活用できているか。 ②授業でのICTの活用が進んだか。	1 ①1年生は昨年度よりやや下降、2年生はやや上昇傾向にあった。 ②研修会を年2回実施した。 2 ①各授業評価は概ね良好であった。②観点別評価は順調に実施されてきている。 3 ①授業評価は各教科内における活用までは行われていない。②ICTの活用は進んでいる。	B 1 ①各学年やコースにおいてGTZの目標を立て、課題に取り組む。1年生のクラスでclassiの課題に取り組み、成績を向上させた。指導に活用する。 2 ①授業評価は最重要項目の1つである。「大変満足」「満足」といったプラス回答を増やすために研修を行うのも一案である。②観点別評価には慣れていたが、5段階評価の出し方を統一させる検討を行う。 3 ①活用法の検討をする②他教員のICT活用を授業見学によって学ぶ機会を設ける。
3	1 時機をとらえた中学校訪問・塾訪問を行うホームページ活用と募集ツールの効果的な利用が求められている。 2 本校の認知度を上げ、オープンスクール・学校説明会・入試相談会等への参加者を増やすことで安定した募集定員（260人）の確保が求められている。 3 進路実績を向上させて中学生・保護者及び中学校・塾関係者の期待と信頼を高め、生徒募集の増加を図る必要がある。	1 本校のホームページの閲覧回数が増えたか。募集ツールの評価が高いか。 2 オープンスクールや学校説明会に参加する中学生が増えたか。 3 ①進路決定率100%を実現できたか。 ②大学合格実績が向上したか、難関大学進学者が増加したか。	1 ①ホームページの工夫・改善を図る。 ②各種アンケートを活用し、募集ツールの質を高める。 2 出前授業、上級学校訪問の積極的な受け入れ等により中学校との連携を強化する。 3 ①進路指導室在室の推進を図る。また大学入試に関する情報共有および分析等を行い、教員間の共通理解を図る。 ②進学に向けた予備校講座、進学セミナーの有効活用を図る。 ③看護医療系進学希望者向けのガイダンスの充実を図る。	1 募集ツール（HP）の効果的利用ができたか。HPの閲覧回数は増えているか。 2 本校受験の出願者が募集定員を超え、単願260人、併願590人以上に、入学者が300人以上になったか。 3 ①生徒の進路指導室利用が増えたか。職員会議等で受験に関する分析等の情報伝達ができただか。また、受験校の検討（特選）およびその情報共有ができたか。 ②国公立3人、早慶上理3人、GMARCH10人、日東駒専15人の合格者が出せたか。 ③看護医療系進学希望を100%実現できたか。	1 HPの閲覧状況（前年度比）は前半大幅増、後半微減。各種募集ツールは好評であった。第2回中学校・塾訪問が直前で見送られた。 2 出願者は単願189人、併願484人 3 ①進路指導室は学習、面談等に活用されている。また分析結果については年度末に実施したい。その他、受験校の検討（特選）と情報共有を特選改革会議にて実施した。 ②現段階では国公立1人（推薦）が出ている。他受験中である。 ③現在受験中の生徒もいる。看護医療希望をほぼ実現した。	B 1、2 10/1実施の進路希望調査結果（県教委）がこの10年で最も好調であった。しかし従来の「単願相談者＝出願者」という図式が崩れ出願につながらなかった。奨学金制度を含め、出願についての意識の変化に対応した募集戦略の練り直しが必要である。 3 ①進路指導室を生徒たちが活用しやすいよう工夫を講じたい。特選会議での受験校の検討を行ったが、次年度以降も続けたい。受験結果に関しては「英検利用」等が有効に働くことが多く見られた。 ②③とともに、次年度も目標達成のために継続した取り組みを行う。
4	1 大学入試改革、生徒指導提要の改訂に対応した教員の研修が必要である。 2 授業力向上、防災・不審者対応などの危機管理対応等の研修の充実が必要な状況である。 3 働き方改革に対応した業務の見直し、改善が喫緊の課題となっている。	1 校内外での研修に教員が参加しているか。研修の成果が教育活動に反映されているか。 2 教育力を高めるための研修が実施されているか。必要な情報が共有されているか。 3 各分掌で業務の見直し、改善への取組が行われているか。教職員の在校時間の縮減がはかれたか。	1 校内研修を実施すると共に校外の研修参加を奨励する。教職員一人一人が学校改革に向けて主体的に取り組む姿勢を醸成する。 2 情報共有を図ると共に、分掌・学年・個人からの学校改革についての意見を積極的に取り入れる。 3 各分掌・学年で担当業務を見直し、不要なものを洗い出し改善を進め業務を効率的に行う。	1 ①大学入試、新学習指導要領、生徒指導提要の改訂への理解が進み、取組が円滑に進んでいるか。 2 ①部長や主任がそれぞれの関係する事案を把握しており、校長、副校長、教頭と必要な連携がとれているか。 ②各教職員が、組織の一員として職務上の役割を主体的に果たしているか。 3 各分掌・学年での業務の見直し、不要業務の洗い出しが行われ業務の削減がなされたか。教職員の在校時間の縮減が行われたか。	1 ①新学習指導要領改訂の情報共有を行った。 2 ①関係する事案の連携を行うことができた。 ②新たな取組等にも挑戦し、進めることができた。 3 業務の洗い出しとしては、模試の校外実施である。校内実施の負担を減らすよう計画している。	B 1 ①新学習指導要領はこれまで以上に研究と対策が必要である。引き続き情報を共有していく。 2 ①部長、科長、主任との連携、および部長と校長・副校長・教頭との連携を引き続き密に取っていく。②連携と協働、挑戦を行っていきたい。そのためには3の業務の削減の視点もなければならない。 3 業務時間内に収められるものについては効率的に作業を行うようにする。

学校関係者評価
実施日 令和8年3月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等
1 学校に訪問した際に生徒がきちんと挨拶をしてくれる。また近隣の施設等にも生徒は礼節を重んじた態度で接している。 3 学校行事の際にも生徒間での協調ができているほか、訪問した方々にも礼節を重んじた姿勢で対応することができていた。 「A」で異議なし。
1 学力の定着が難しい場合での個別対応などを行い、生徒の学力上昇のための努力をしている。 2、3 教員も授業研究月間などの研修を通じ、力を向上させている様子がうかがえる。生徒の学力向上はこれからも継続しなければならぬ点である。 「改善実績」があればA評価でもよいが、教員がさらに高い目標を目指していくという観点で考えると「B」評価で良い。
3 進むべき方向を考えつつも、目的意識が希薄な状況で勉強する生徒はいる。だがそうした生徒たちが自分の方向性を定め、進学を決定することができるのは、日々先生方が対応している結果であると考える。 本校卒業生の保護者として、高校3年間を経て自分の方向性を定めることができた。社会や制度が変化しても生徒が動揺せずに対応できる体制がとられており、工夫して取り組んでいることがわかる。 A評価でもよいと考えるが、さらに上を目指すという意味で「B」評価に異議なし。
1 学習指導要領の改訂などにより、勉強の仕方が変わることもあり、保護者としては不安な部分もあるが、学校としてしっかりと対応していることは見えている。 2 生徒は相談しやすい教員や学校のチームワークなどについてもよく見ている。そのためには先生方の働き方も重要である。 業務の削減等に関し、若干の課題点もある。「B」評価に異議なし。